

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内・事業所内理念を見える場所に掲げ毎日朝礼時に唱和し心にとめながら仕事に取り組むように心がけている。	玄関や各フロアの目につく所に理念を掲示している。利用契約時に家族や本人に説明もしている。毎朝、朝礼にて唱和・確認し支援に取り組んでいる。また、定期的に責任者会議を行い日々の状況を確認し合い、職員に課題があった場合には問い掛け、話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事(お花見会・夏祭り・会食会等)にも複数人参加をさせていただいている。近隣の中学校の福祉体験・ボランティアの受け入れを行っている。	自治会費を納め、区の情報も区長や民生委員から頂き、地区の行事に参加している。地区の食事会やお花見、夏まつり等に参加し交流を深めている。区長の提案で地区の会合において認知症の研修会を行ったこともある。また、地域主催の防災訓練にも参加し地域との関係を深めている。中学生の職場体験を受け入れ、社協ボランティアの来訪も数多くあり地域の一員として日頃から交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	10月には近隣の民生委員のかたが9名施設見学に訪れ、認知症の理解や支援方法についても意見交換ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催をしており、サービス状況などをご報告させていただくとともに、地域活動等お聞きするようになっている。	奇数月の第2火曜日に家族代表、区長、民生児童委員、市担当課職員、ホーム関係者の出席で実施している。活動報告やサービス提供報告、意見交換等が行われ、職員の全体会議でも会議内容を報告し運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には出席していただき、事業所の取り組みを報告させていただき、運営規程等変更時には内容を説明しながら提出している。また課題等とはご相談させていただいている。	市担当課に諸々の相談をし助言を頂いている。認知症実践者研修についても市から推薦を頂いている。地域包括支援センター主催の認知症介護予防研修に職員が参加している。また、市の主催する介護保険事業者協議会にも出席しサービスの向上に役立っている。介護認定更新の際には市調査員が来訪し、職員が立会い可能な家族には同席をお願いし調査を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を通じ身体拘束に理解を深め、参加できなかった職員を対象に伝達研修の実施をし意識向上に努めている。	市街地に立地していることから車の往来が多く安全確保のため玄関は施錠されている。外出傾向の強い利用者については散歩をしたり、話をすることで対応している。平均年齢も上がり転倒される利用者が数名出たことがあり、大事に至らずにすんだが転倒防止を図るためセンサーマットを数名が利用している。転倒再発防止を図るべく行動パターンを記録に残し、見回りを重点的に行うようになっている。拘束に関する研修会を年2回実施し理解を深めている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通じ虐待に理解を深め、参加できなかった職員を対象に伝達研修の実施をし意識向上に努めている。また日々の中でお互いが検証しあい内部牽制をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて参加・受講し、スタッフ会議前に伝達研修を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前の説明をし、ご家族に契約内容をご理解・ご確認していただいた中で締結としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には日々の中で思いをくみとり、職員間での情報共有・ケアへの跳ね返りを実践している。各階に意見箱の設置。ご家族面会時にはご利用状況をお伝えしている。月1回はご利用状況についてお手紙と写真をお送りしている。	家族の来訪は毎日の方もおり、平均月2~3回の方が多く、面会の際は利用者の状況をお話すると共にケアに対する今後の意見も頂き支援に取り入れている。利用者の日頃の状況を手紙と写真で個人別に作成し請求書に同封し、家族からも喜ばれている。地区の夏祭りの「あずみの祭り」には家族の来訪が多く、利用者と共に「バーベキュー」や「流しそうめん」等を楽しまれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ユニット合同会議・各ユニット会議を設け、職員間の情報共有に努めている。	第2水曜日の夕方、職員会議1時間、ユニット会議1時間の計2時間実施している。職員からの業務改善の提案や各職員の思っていることを話し合い、お互いに取り入れるべきことは取り入れ情報共有の場としている。法人の研修会も数多く行われ、会議の場において伝達研修が行われている。目標管理シートが導入されており、毎月「チェックシート」に従い自己評価を行ない2ヶ月に1回管理者による個人面談も行われ人事考課制度に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で取り組んでいる、人事評価制度も基ととしながら取り組んでいる。また各自目標を明確にしながら日々取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT OFF-JTの実践。また受講後は研修報告会を行っている。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業所連絡会にも参加したり、市内のGHにも施設見学をさせていただいた。法人内の他事業所にも研修させていただき学んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がご利用者と同じ目線の中でコミュニケーションをはかっていく中で、ご本人の言葉に耳を傾け思いをくみ取れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や事前面談の中で時間を確保した中でご家族の状況や思いを傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい環境を整え言葉や表情からご本人・ご家族の想いをくみとりながらサービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りなど生活していく中でお互いに支え合う関係作りにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはお誘いの案内を送らせていただき、参加していただいたり、家族の方も気軽に来て頂けるような環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方も定期的に来所されたり、ご家族のご協力もいただきながら自宅へ戻ったりなどご利用前からの関係性が継続できるように支援している。前任のケアマネにも生活状況の報告や面会にもきていただいている。	自宅近所の方の来訪もあり、多い方は月2回来られお茶を出して接待し寛いでいただいている。利用者の知人から果物や野菜の差し入れなども頂き感謝しつつ、献立に活かしている。遠方におられる家族より手紙を頂き楽しみにしている利用者もいる。帰宅願望の強い利用者については2~3ヶ月に1回自宅にお連れし、何か1品自宅より持ち帰ることにより満足され、ホームの生活に親しめるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の良いところに気づき職員が関係性を繋げるようにしている。また2ユニットでの合同行事も増やし、18名の関係性が深めていけるように心がけている。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々にも期間を置きながら、GHでの生活を冊子・写真アルバムとしお渡ししながら、ご家族の想いに寄り添えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活史を知りまた見返しをしながら、日々の生活の中で思いや希望の把握に努めている。	自分の想いを伝えられる利用者が半数以上いる。また、利用者の表情や声のトーンで思いや意向の把握にも努めている。意思表示の難しい利用者に対しては家族の意見なども聞き、きめ細かな声掛けをし希望を汲み取り支援に繋げている。また、表情、つぶやきなどをアセスメントシートに追記し情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族からの情報収集はもちろんのこと、利用してきたサービス機関にも訪問をしご利用状況などをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録に日々の様子を記録をし申し送りに記録と口頭にて実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で本人・ご家族のご意向と共にユニット職員全員で計画作成を行っている。	職員は1~2名の利用者を担当している。ケアプランの短期見直しは基本的に3ヶ月に1回行われ、担当者がたたき台を作成しユニット会議で「モニタリング」し変化が有れば見直し、なければ長期1年での見直しとしている。家族からは「今の状態を継続させてほしい」という希望が多くあり、「家事・作業」、「体操」、「歌を唄う」等、出来ることを援助内容に組み込み、現状を踏まえ継続するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の様子を記録をし記録方法についても統一を図る。申し送りに記録と口頭にて実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の要望に応じて医療機関への通院や買い物・散歩などの外出にはご家族の代わりにったり、散髪・予防接種をおこなったり柔軟な対応をしている。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と共に外食や買い物に出かけたり、地区の会食会にも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族のご意向を大切に主治医との連携を図っている。急変時には協力医療機関に相談できるような体制は整えている。	本人や家族の希望に合わせた医療機関となっている。利用前からの主治医を継続利用している方が多く、基本的にはご家族がお連れしている。家族が遠方の方は職員が付き添い家族への報告を行っている。また、週1回、訪問看護師の来訪があり体調管理とアドバイスを頂いている。更に、近くの総合病院に緊急時の対応をお願いできるようにしている。歯科については近くのクリニックに月4回の訪問診療をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回入っており、急変時等相談支援していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院の際には生活状況の伝達。主治医への連絡をおこなう。入院時も面会に行き情報の共有をはかっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては入所時の説明と、終末期に関してはご利用者・ご家族の意向を尊重しながら、関係機関と連携し方向性をだしている。	グループホームで「最期の時を迎えられるよう最大限の対応を基本とする」という法人の対応指針があり、契約時に家族に説明している。看取りについては医療行為が伴うので家族の想いを尊重しながら訪問看護師や主治医と連携を取りながら段階を踏み、相互に話し合いを重ねホームとしての方向性を決め、出来ることを行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認・周知。緊急連絡先の確認。救急救命の研修の参加し、伝達研修を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回の実施。消防署にも協力いただきながら実施。夜間想定とし連絡網をまわしたりしている。	年2回利用者も参加し避難訓練を実施している。うち1回は消防署員参加の下に行われ、消火器の取り扱いや緊急連絡網を回しての通報訓練などが行われた。日中の想定訓練では車イスの利用者も参加し、避難経路の確認なども行った。地区との防災協定もあり相互の協力体制を築いている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人・事業所理念に立ち返り言葉使いなど注意しその方にあった声掛けを実践している。	理念にもある「お教わろう」、「信頼関係の構築」を念頭に利用者に接している。呼び方は尊敬の念を込め苗字に「さん」付でお呼びしている。職員は気配りを忘れず、プライバシーを損ねない対応に心掛けている。また、職員は法人の各委員会や研修会に参加し、権利擁護や個人情報の保護の意識を常に保持し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけの工夫や、ご利用者と同じ目線の中でその方の言葉や表情をくみ取りながらケアにつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	線でのケアができるよう、口頭での申し送りと、体調・表情などからご本人のご希望を的確にとらえケアしていくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装の決定や、定期的に美容師に来てもらいカットはもちろん毛染めも対応していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬のものを取り入れ、調理から片付けを一緒に行いながら、感謝の気持ちもお伝えしている。一緒に食事をしながら、気持ちを共有している。	殆どの利用者が自力で食事が出来、食形態もミキサー食の方が若干名、キザミ食の方が数名で他の方は普通食である。献立は法人で立てたものを使い、食材も配達され、調理は職員が行っている。数名の利用者を除き大半の方にお手伝いをさせていただくことができ、準備から後片付けまでお楽しみ食の時間を送っている。お盆や正月、誕生日等には行事食が用意されている。今年のバレンタインデーにはチョコレートケーキを皆で作って楽しんだという。ホームでドライブに出掛け外での食事を楽しむこともあり、家族と外食に行かれる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった食事形態での提供、毎食の食事量や水分量を把握している。水分についてはお茶だけではなく工夫しながら提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けをし、職員も支援させていただいている。ご家族の希望で訪問歯科を利用させているかたもいる。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄のパターンを確認しながら、事前に声掛けや支援をさせていただいている。	自分でできる方が三分の一で、一部介助が三分の二近くおり、全介助の方が若干名という状況で一人ひとりに合わせ支援している。リハビリパンツを使用している方が多く、布パンツ使用の方が三分の一という状況で、夜間ポータブルトイレ使用の方も若干名いる。毎食後、中間、就寝前に細目な声掛けを行い、一人ひとりのパターンに合わせスムーズにトイレに誘導し、気持ち良く生活していただけるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維の多いものの提供や、水分をこまめに提供したり、運動も毎日の中で取り入れ排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望にあわせ、入浴に対し拒否される方にも、言葉かけや対応を工夫しながら柔軟に対応している。	基本的には週2回入浴している。見守りを含め一部介助の方が殆どで、2人介助の方が若干名という状況である。入浴を拒否される利用者もかなりいるが、日や時間帯を変更したり、職員を変え、無理強いをしないよう工夫し週2回は入浴できるようにしている。また、菖蒲湯やゆず湯なども行き楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握しながら、日中の活動夜の休養がしっかりとれるよう個々の生活リズムを尊重しケアしている。夜間も定時巡視をし迅速に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を確認し、変更があった場合には職員ノートを活用し情報共有している。経過についても確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の掘り起しと共にご本人の得意なことや役割を提供し、喜びを感じられるよう支援につとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日にはベランダで外気浴をしたり、ご飯を食べたり。近隣の公園・お寺・デパートへ出かける機会を設けている。	天気の良い日にはベランダで外の空気に触れたり、近くのお寺やホームの回りを散歩している。外出時、自力歩行の方が三分の一ほどで、杖やシルバーカーの利用者が数名ずつという状況であるが、念のため車イスを持って出掛けている。日用品を買いに職員付き添いで近くの大型店まで交代で買い物に出掛けている。年間外出計画の中で季節に応じて花見やバラ園の見学、紅葉狩り等にも出掛けている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にとって好きなものを買ったり、ご自身で精算したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に暑中見舞いを出し、ご家族からもお手紙をいただいたり、電話も希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはカレンダーや大きな木を貼り付け、季節に応じてご利用者と一緒に張り替え季節感を出している。またみなさんと共同制作したものについても飾り付けをしている。テーブルに花を飾ることにより見て楽しむこと、管理することも日課としている。	ホーム全体が床暖とエアコンの空調制御で快適である。各フロアに入ると広々とした廊下に続き利用者が多くの時間を過ごす食堂があり、テレビを見たり新聞を読んだりしている姿が見受けられた。脇には和室も完備され休むことも出来る。壁には共同制作された大きな貼り絵や職場体験で来訪した中学生から送られたお礼の「たより」が貼り出されていた。トイレもゆったりとしたスペースが取られ、車イスの利用者への配慮が感じられる。各階の外には大きなベランダが設けられ天気の良い日には外気浴を楽しみ、プランターによる野菜作りなども楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室なども利用していただきながら、ご利用者同士で話をしたり、食事をしたり同じ時間を共有している。全室個室のため居室にて本や新聞を読んだりできるよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはご本人の馴染みの湯のみや茶碗・家具などもご家族とも相談しながら環境を整えている。居室内にご家族との写真や行事で作った作品なども飾らせていただいている。	各居室には洗面台があり暮し易い環境を考えた造りとなっている。カーテンも2重の物が取り付けられ、暖かいように工夫がされている。利用者は思い思いの物を持ち込み、家族の写真や自作の作品などを飾り、誰にも遠慮のいらぬ自分らしいくらしができるような場になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前とトイレの床を変えわかる工夫をしている。また整理整頓を心がけながら移動のしやすい環境設定をしている。		